

報道関係者各位

2023年4月25日

国立成育医療研究センター

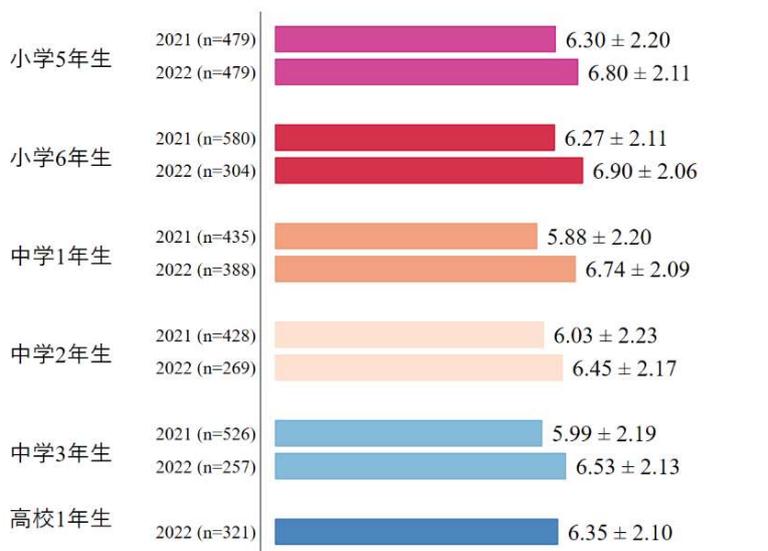
**【コロナ禍における親子の生活と健康の実態調査】**

**2021年と比べて小中学生の向社会性は改善傾向  
 しかし、こどもの抑うつ傾向は改善が見られず注意が必要**

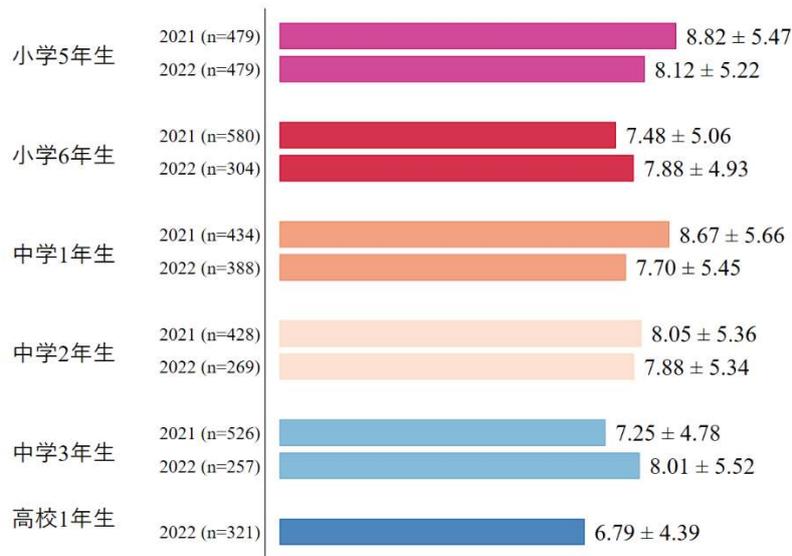
国立成育医療研究センター（所在地：東京都世田谷区 理事長：五十嵐隆）研究所の社会医学研究部 森崎菜穂部長らの研究チームは、小中高生とその保護者を対象に3回（2020年12月、2021年12月、2022年10月）実施した「新型コロナウイルス感染症流行による親子の生活と健康への影響に関する実態調査」の報告を、経時的にまとめました。

その結果、2021年と比べて、2022年の調査では小学校5年から中学校3年までの各学年において、協調性や共感性などの向社会性を表す指標は改善が認められました（グラフ1）。一方で、仲間関係・多動/不注意・情緒・行為の問題を含むメンタルヘルスの問題については、小5・中1では改善が見られるも、中3では悪化するなど、全体では改善が見られませんでした（グラフ2）。また、こころの状態について、保護者は2022年は2021年より改善が見られましたが、こどもにおける中等度以上の抑うつ傾向は、2021年が11%、2022年が13%と改善は見られませんでした（グラフ3）。

5月8日以降、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類に変わり、社会活動が平時に戻っていきます。しかし、こどもも大人も全員が同じペースで同じように回復するわけではなく、こころや身体の状態が戻るのに時間がかかる人もいます。そういった方々が取り残されないよう、本調査結果が個人や社会としてこどもたちに何ができるのかを考え続けるきっかけになれば幸いです。

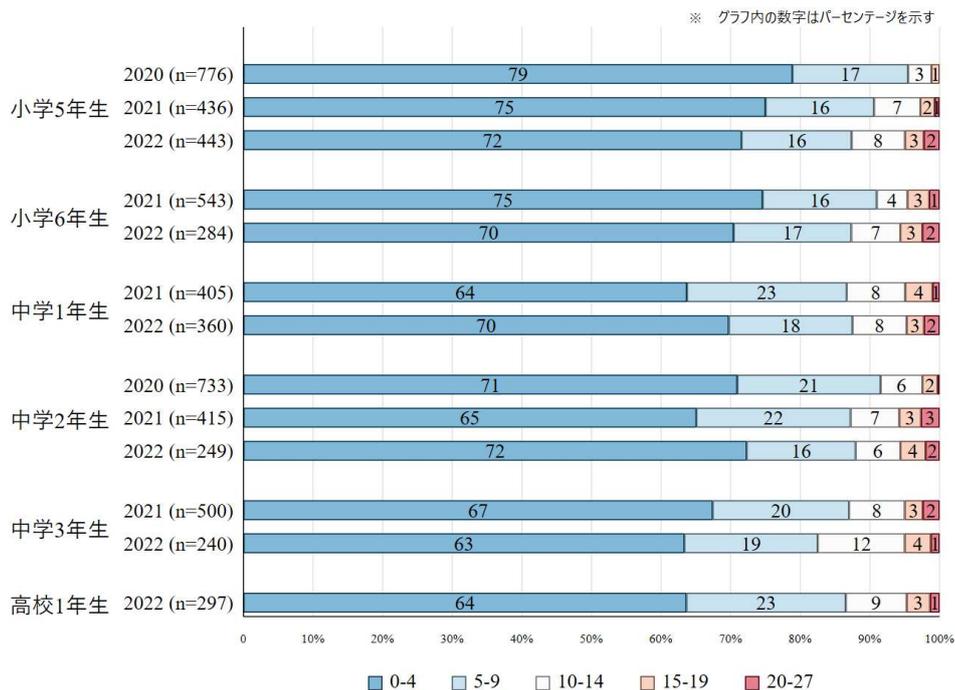


【グラフ1：こどもの向社会性について】



【グラフ2：こどもの総合的な困難さ（メンタルヘルス）】

日本語版 SDQ (Strength and Difficulties Questionnaire: 子どもの強さと困難さアンケート) を用いて、直近半年のこどもの情緒や行動について保護者に尋ねました。向社会的な行動は (0-10 点) で評価。得点が高いほど向社会的な行動が多いことを表します。「仲間関係の問題」「多動/不注意」「情緒の問題」「行為の問題」(各 0-10 点) の合計点からなる「総合的な困難さ (TDS: total difficulties score)」(0-40 点) は得点が高いほど困難さが大きいことを意味します。



【グラフ3：こどもの抑うつ傾向】

PHQ-A (Patient Health Questionnaire-9 for Adolescents) 尺度: PHQ-9 尺度 ((Patient Health Questionnaire-9; 成人用のうつ症状の重症度尺度) を改訂して作られた、思春期の子どもを対象としたうつ症状の重症度尺度です。過去7日間について、①「気分が落ち込む、憂うつになる、いらいらする、または絶望的な気持ちになる」、②「物事に対してほとんど興味がなく、または楽しめない」など、9 項目の質問から構成されています。各項目は、4 点スケール (0: 全くない、1: 数日、2: 半分以上、3: ほとんど毎日) で評価され、総合点が高いほど重度のうつ症状が示唆されます。5~9 点が軽度、10~14 点が中等度、15~19 点がやや重度、20 点以上は重度のうつ症状と評価されます。

【「新型コロナウイルス感染症流行による親子の生活と健康への影響に関する実態調査報告書 (2020-2022)」より抜粋】

### 【プレスリリースのポイント】

- 層化二段無作為抽出法<sup>※1</sup>により全国 50 自治体から選ばれた小中高生のこどもとその保護者を対象に調査票を郵送し、2020 年 12 月、2021 年 12 月、2022 年 10 月に調査を実施しました。（2020 年度は小 5・中 2、2021 年度は小 5～中 3、2022 年度は小 5～高 1 を対象としています。）
- 協調性や共感性などの向社会性を表す指標については、小学校 5 年から中学校 3 年までの各学年において、2021 年と比べて 2022 年の調査では改善が見られました。（グラフ 1）一方で、仲間関係・多動/不注意・情緒・行為の問題を含む総合的な困難さについては、小 5・中 1 では改善が見られるも、中 3 では悪化するなど、全体では改善が見られませんでした（グラフ 2）。
- 中等度以上の抑うつ傾向は、こどもでは全体に占める割合が 2021 年は 11%、2022 年は 13%と改善は見られませんでした（グラフ 3）。しかし、保護者では 2021 年が 40%、2022 年が 28%と改善が見られました。
- こどもの孤独感を表す指標、肯定的な未来志向に関する指標については、2021 年と 2022 年で統計学的に有意な変化はありませんでした。
- 保護者については小 6～中 2 の各学年で、こころの状態を表す指標の改善が認められました。

※1：層化二段無作為抽出法

層化二段無作為抽出法は、行政単位（都道府県・市町村）と地域によって全国をいくつかのブロックに分類し（層化）、各層に調査地点を人口に応じて比例配分し、国勢調査における調査地域および住民基本台帳を利用して（二段、各地点ごとに一定数のサンプル抽出を行うものです）。

### 【研究者のコメント】

本調査は、コロナ禍の 3 年間続けてきました。しかし、例えば抑うつ傾向などに関する調査はコロナ前にはあまり行われておらず、比較できる調査がありませんでした。こどもの心身の健康は、新型コロナウイルスなどのように社会的な事象に大きな影響を受けるため、その事象によって子どもたちの状態がどのように変化したのかをしっかりと分析していくことが重要です。そのためには、平時から同様の調査が継続的に行われ、データを蓄積し、それを社会に還元することで、こどもにとっての最善の環境が整えられていくことが大切だと考えます。本調査の実施にあたってはさまざまな研究費、また広報については民間の助成などのご協力を得ました。今後も、調査実施をご支援して下さる方々と、調査に協力していただける回答者がいらっしゃるかぎり、本調査を継続して実施していきたいと考えていますので、引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。

※国立成育医療センターでは、特定の研究や研究者を支援する寄付（研究基金）を受け付けています。<https://www.ncchd.go.jp/donation/application.html>

### 【報告書について】

「新型コロナウイルス感染症流行による親子の生活と健康への影響に関する実態調査報告書（2020-2022）」の全文は国立成育医療研究センター「コロナ×こども本部」のページで公開しています。

<報告書 URL : [https://www.ncchd.go.jp/center/assets/CXCN\\_repo2022.pdf](https://www.ncchd.go.jp/center/assets/CXCN_repo2022.pdf)>

### 【参考資料】

実施期間	2020年12月4日～12月23日	2021年12月8日～12月26日	2022年10月7日～10月31日
調査対象	層化二段無作為抽出法により全国50自治体から選ばれた、小学5年生、中学2年生のこども3,000名およびその保護者（小5・中2のこども各1500名とその保護者）	層化二段無作為抽出法により全国50自治体から選ばれた、小学5年生～中学3年生のこども4,519名およびその保護者（2020年度調査の回答者のうち、継続的な調査協力を申し出てくださった1,519名と、2021年に新たに選ばれた小5・中1・中2のこども各1000名とその保護者）	層化二段無作為抽出法により全国50自治体から選ばれた、小学5年生～高校1年生のこども3,161名およびその保護者（2020-2021年度調査の回答者のうち、継続的な調査協力を申し出てくださった2,161名と、2022年に新たに選ばれた小5のこども1000名とその保護者）
実施方法	郵送された調査票への回答	郵送された調査票への回答	郵送された調査票への回答
調査回答数	こども 1,536名（回答率51%） 保護者 1,551名（回答率52%）	こども 2,418名（回答率53%） 保護者 2,451名（回答率54%）	こども 1,918名（回答率60.6%） 保護者 2,020名（回答率63.9%）
調査財源	厚生労働科学研究費（厚生労働科学特別研究）「新型コロナウイルス感染症流行前後における親子の栄養・食生活の変化及びその要因の解明のための研究」	科学技術振興機構 戦略的国際共同研究プログラム（SICORP）「新型コロナウイルスによる青少年の生活と健康への影響およびその関連因子に関する日欧比較研究」 成育医療研究開発費「新型コロナウイルス流行に伴うこどもの健康・生活に関する全国調査（コロナ×こどもアンケート）」	日本学術振興会 英国（UKRI）との国際共同研究プログラム「新型コロナウイルス流行下における日英の親子の精神的健康とニーズの推移分析から学ぶ」 日本学術振興会 基盤研究B「思春期のこころの発達とリスク行動に関する全国加速コホート調査」

### 【問い合わせ先】

国立成育医療研究センター 企画戦略局 広報企画室 村上  
電話：03-3416-0181（代表） E-mail:koho@ncchd.go.jp